

## 桐生悠々と防空演習

標題は9月10日の中日新聞社説。関心あるテーマで、同感するところが多いので、書き写して紹介したい。写真は社説に出てくる「関東防空大演習を嗤ふ」のあと、「『信濃毎日』を辞める直前の悠々とその家族」(井出孫六『抵抗の新聞人 桐生悠々』岩波新書、1980年)。



北朝鮮が弾道ミサイル発射を繰り返し、国内では避難訓練も行われています。かつて関東上空での防空演習を嗤(わら)った桐生悠々なら何と評するでしょうか。

きょう9月10日は明治後期から昭和初期にかけて健筆を振るった反骨のジャーナリスト、桐生悠々の命日です。太平洋戦争の開戦直前、1941(昭和16)年に亡くなり、76年がたちます。

本紙を発行する中日新聞社の前身の一つである新愛知新聞や、長野県の信濃毎日新聞などで編集、論説の総責任者である主筆を務めた、われわれの大先輩です。

### 非現実の想定「嗤う」

新愛知時代には、全国に広がった米騒動の責任を新聞に押し付けようとした寺内正毅内閣を厳しく批判する社説の筆を執り、総辞職に追い込んだ気骨の新聞人です。

その筆鋒は軍部にも向けられます。信毎時代の33(同8)年8月11日付の評論「関東防空大演習を嗤う」です。

掲載の前々日から行われていた陸軍の防空演習は、敵機を東京上空で迎え撃つことを想定していました。悠々は、すべてを撃ち落とすことはできず、攻撃を免れた敵機が爆弾を投下し、木造家屋が多い東京を「一挙に焦土たらしめるだろう」と指摘します。

「嗤う」との表現が刺激したのか、軍部の怒りや在郷軍人会の新聞不買運動を招き、悠々は信毎を追われますが、悠々の見立ての正しさは、その後、東京をはじめとする主要都市が焦土化した太平洋戦争の惨禍を見れば明らかです。

悠々の評論の核心は、非現実的な想定は無意味なばかりか、有害ですらある、という点にあるのではないのでしょうか。

その観点から、国内の各所で行われつつある、北朝鮮の弾道ミサイル発射に備えた住民の避難訓練を見るとどうなるのか。

### ミサイルは暴挙だが

まず大前提は、北朝鮮が繰り返すミサイル発射や核実験は、日朝平壤宣言や国連安保理決議などに違反し、アジア・太平洋地域の安全保障上、重大な脅威となる許し難い暴挙だということです。

今、国連を主な舞台にして、北朝鮮に自制を促すさまざまな話し合いが続いています。日本を含む関係各国が「対話と圧力」を駆使して外交努力を惜しんではなりません。軍

事的な対応は憎悪が憎悪を呼び、問題の根本的な解決にならないからです。

その上で、北朝鮮のミサイル発射にどう備えるべきなのか。

政府は日本に飛来する可能性があるかと判断すれば、全国瞬時警報システム(Jアラート)を使って避難を呼び掛けます。8月29日早朝の場合、発射から4分後に北海道から関東信越までの12道県に警報を出しました。

とはいえ、日本の領域内に着弾する場合、発射から数分しかありません。政府は、屋外にいる場合は近くの頑丈な建物や地下への避難を呼び掛けていますが、そうしたものが身近にない地方の都市や町村では、短時間では避難のしようがないのが現実です。

8月の発射でも「どこに逃げるか、どのように身を隠せばいいか。どうしていいか分からない」との声が多く出ています。

住民の避難訓練も同様です。ミサイル発射を想定した国と自治体による合同の避難訓練が今年3月以降、すでに全国の14カ所で行われていますが、専門家からは訓練の想定や有効性を疑問視する声が出ています。

北朝鮮は、在日米軍基地を攻撃目標にしていることを公言していますし、稼働中であるか否かを問わず、原発にミサイルが着弾すれば、放射線被害は甚大です。

しかし、政府は米軍基地や原発、標的となる可能性の高い大都市へのミサイル着弾を想定した住民の避難訓練を行っているわけではありません。有効な避難場所とされる地下シェルターも、ほとんど整備されていないのが現状です。

訓練の想定が現実から遊離するなら、悠々は防空大演習と同様、論難するのではないのでしょうか。

### 原発稼働なぜ止めぬ

戦力不保持の憲法9条改正を政治目標に掲げる安倍晋三首相の政権です。軍備増強と改憲の世論を盛り上げるために、北朝鮮の脅威をことさらあおるようなことがあっては、断じてなりません。

国民の命と暮らしを守るのは政府の役目です。軍事的な脅威をあおるよりも、ミサイル発射や核実験をやめさせるよう外交努力を尽くすのが先決のはずです。そもそもミサイルが現実の脅威なら、なぜ原発を直ちに停止し、原発ゼロに政策転換しないのでしょうか。

万が一の事態に備える心構えは必要だとしても、政府の言い分をうのみにせず、自ら考えて行動しなければならない。悠々の残した数々の言説は、今を生きる私たちに呼び掛けているようです。

(2017年9月11日)